

(講座) 環境薬科学
(氏名) 原武 衛

(研究室) 衛生化学
(職名) 助教授

【研究テーマ】

1. 必須微量元素の体内動態と機能の解析

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Ono, N. Yoshida, K. Ishibashi, M. Haratake, Y. Arano, H. Mori and M. Nakayama: Radioiodinated flavones for in vivo imaging of β -amyloid plaques in the brain. *J. Med. Chem.*, **48**, 7253-7260 (2005). (IF: 5.076)
2. M. Ono, M. Haratake, M. Nakayama, Y. Kaneko, K. Kawabata, H. Mori, M. P. Kung and H. F. Kung: Synthesis and biological evaluation of (E)-3-styrylpyridine derivatives as amyloid imaging agents for Alzheimer's disease. *Nucl. Med. Biol.*, **32**, 329-335 (2005). (IF: 2.713)
3. M. Haratake, M. Fukunaga, M. Ono and M. Nakayama: Synthesis of vanadium(IV, V) hydroxamic acid complexes and in vivo assessment of their insulin-like activity. *J. Biol. Inorg. Chem.*, **10**, 250-258 (2005). (IF: 3.300)
4. M. Haratake, K. Fujimoto, M. Ono and M. Nakayama: Selenium binding to human hemoglobin via selenotrisulfide. *Biochim. Biophys. Acta.*, **1723**, 215-220 (2005). (IF: 3.369)

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 前川 哲也、原武 衛、小野 正博、中山 守雄：ラット摘出脂肪細胞を使ったバナジウム(IV, V)-ヒドロキサム酸醋体のインスリン様作用の評価. *Biomed. Res. Trace Elements*, **16**, 355-357 (2005). (IF: なし)

(B-c) 著書

1. 原武 衛：新井洋由、早川和一編集「衛生薬学 —健康と環境—」第4章 第3節 化学物質の毒性および第4節 化学物質による中毒と処置、廣川書店、東京 (2004) .

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. M. Ono, M. Haratake, N. Yoshida, H. Mori and M. Nakayama : Novel flavones as amyloid imaging agents. Society of Nuclear Medicine 52nd Annual Meeting, Jun. 19-22, 2005 (Toronto, Canada).

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 大神 正次、小野 正博、原武 衛、中山 守雄： ^{99m}Tc 標識を目的とした新規非対称ビスヒドロキサムアミド誘導体の合成とその二官能性キレート試薬としての評価、日本薬学会第 125 年会、2005 年 3 月（東京）
2. 前川 哲也、原武 衛、小野 正博、中山 守雄：バナジウム(IV, V)-ヒドロキサム酸酢体の安定度定数とインスリン様活性、日本薬学会第 125 年会、2005 年 3 月（東京）
3. 中山 守雄、原武 衛、小野 正博、明石 真言：ストロンチウム-90 の体内取り込みを軽減するための内服用吸着剤の開発、日本薬学会第 125 年会、2005 年 3 月（東京）
4. Morio Nakayama, Katsuyoshi Fujimoto, Masahiro Ono, Mamoru Haratake : Elucidation of the selenite metabolic pathway in RBC using penicillamine-substituted glutathione selenotrisulfide, 第 15 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム、2005 年 6 月（大阪）
5. 前川 哲也、原武 衛、小野 正博、中山 守雄：ラット摘出脂肪細胞を使ったバナジウム(IV, V)-ヒドロキサム酸酢体のインスリン様作用の評価、第 16 回日本微量元素学会、2005 年 6 月（京都）
6. 平川 律子、原武 衛、小野 正博、中山 守雄：赤血球から血漿へのセレンの放出機構に関する検討、フォーラム 2005：衛生薬学・環境トキシコロジー、2005 年 10 月（徳島）
7. 大神 正次、小野 正博、原武 衛、中山 守雄：生理活性ペプチドの ^{99m}Tc 標識を目的とした新規二官能性キレート試薬の開発-非対称ビスヒドロキサムアミド誘導体の合成とその評価、第 5 回放射性医薬品・画像診断薬研究会、2005 年 12 月（京都）
8. 平川 律子、原武 衛、小野 正博、中山 守雄：赤血球から血漿へのセレンの放出機構の解明、第 22 回日本薬学会九州支部大会、2004 年 12 月（福岡）
9. 前川 哲也、原武 衛、小野 正博、中山 守雄：ラット摘出脂肪細胞に対するバナジウム(IV, V)-ヒドロキサム酸酢体のインスリン様作用の解析、第 22 回日本薬学会九州支部大会、2004 年 12 月（福岡）

C 特許

1. 中山 守雄、原武 衛、小野 正博、森 啓：アミロイド関連疾患診断用組成物 (PCT/JP2005/021642)

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	25 編	（邦文）	2 編
総説（欧文）	1 編	（邦文）	0 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
特許	1 件		